

キアシミズギワコメツキの形態について

大平仁夫

〒444-35 岡崎市舞木町狐山 6-4

Notes on the Morphological Structure of *Fleutiauxellus tutus* (Coleoptera, Elateridae) from Japan

HITOO ÔHIRA

Kitsuneyama 6-4, Maiki-chô, Okazaki, 444-35 Japan

Abstract *Fleutiauxellus tutus* was originally described by G. LEWIS (1984) from Fukushima in Nagano Prefecture, under the generic name of *Cryptohypnus*. Recently, I had an opportunity to examine the type specimen of this species through the courtesy of Miss VON HAYEK of the British Museum (N.H.), as shown in Fig. 1. General structures of this unique species examined by SEM-images (Fig. 2) are described for facilitating recognition of its systematic status in the genus *Fleutiauxellus* of the Negastrinae from Japan.

本種は、G. LEWIS が採集した標本にもとづいて、同氏自身が新種として 1894 年に記載した、小型で黒色の種である。原記載以降、青森県から岡山県にいたる各地からの分布記録がみられるが、形態について詳しく研究された報告はない。また、分布記録についても、同定の誤りによると思われるものがあるので、分布の実態についての再調査も必要だと思われる。

筆者はこのたび、本種の基準標本を検査することができ、形態について詳しく調査したのでここに報告する。本文を草するにあたり、本種の基準標本を貸与され、種々ご教示をいただいた VON HAYEK 女史に心からお礼を申し上げる。

種 の 概 要

本種は、G. LEWIS が長野県の本曾福島付近で採集した標本にもとづいて、*Cryptohypnus tutus* と自身で命名し、1894 年に新種として記載した種である。採集した個体数は不明であるが、VON HAYEK 女史によれば、現在 British Museum (N.H.) には、G. LEWIS の自筆の同定ラベルが付された 1 頭が保管されているということである。それは図示 (Fig. 1) したような個体で、産卵管が認められるので雌個体である。標本の台紙の裏面には鉛筆で 28/8/81 の記入がある。BATES (1883) の記録によれば、G. LEWIS はその日に、群馬県の前橋に滞在していたことになっている。原記載に記載されている産地の福島は 1881 年 7 月 26 日の滞在になっているので、原記載に与えられた産地と台紙に記入されている日付から推定した産地とに相違がみられる。どちらが正しいかは、これ以外に確認資料がないので不明である。

本種は一般に初夏に多く見出されるため、成虫が採集できる可能性は本曾福島の方が高いが、基準



Fig. 1. Holotype of *Fleutiauxellus tutus* (LEWIS, 1894) and its labels in the collection of the British Museum (N.H.).

標本が雌固体であることを考えると、8月下旬でも採集できる可能性はあるように思われる。しかし、どちらかが誤記であっても、原記載に明記された産地が、唯一の公式産地なので、ここでは基準産地が木曾福島であるとして扱うことにする。

本種の一般外形は、近似種のミズギワコメツキ (*F. curatus*) にきわめてよく似ており、原記載でも“Should be placed next to *C. curatus*, CAND.”と述べている。原記載上で比較するかぎり、これら両種の相違点は肢の色(本種では黄色い)くらいである。また、本種は *Saghalien* から記録されているが、これは明らかに同定の誤りに基づくものと思われるし、九州からの記録も再調査が必要である。本種の属名として、最近では *Migiwa* が用いられてきたが、大平 (1988) の研究にしたがって、*Fleutiauxellus* 属の種として扱うことにする。

形態の概要

体長は 3.5~4 mm。体は幅広くて両側は平行状である。黒色で光沢を有し、上翅は黒色またはやや黒褐色、全面に灰黄色毛を生ずる。上翅は長毛と短毛を混生しない。触角の基部 3 節 (ときに基部 2 節)

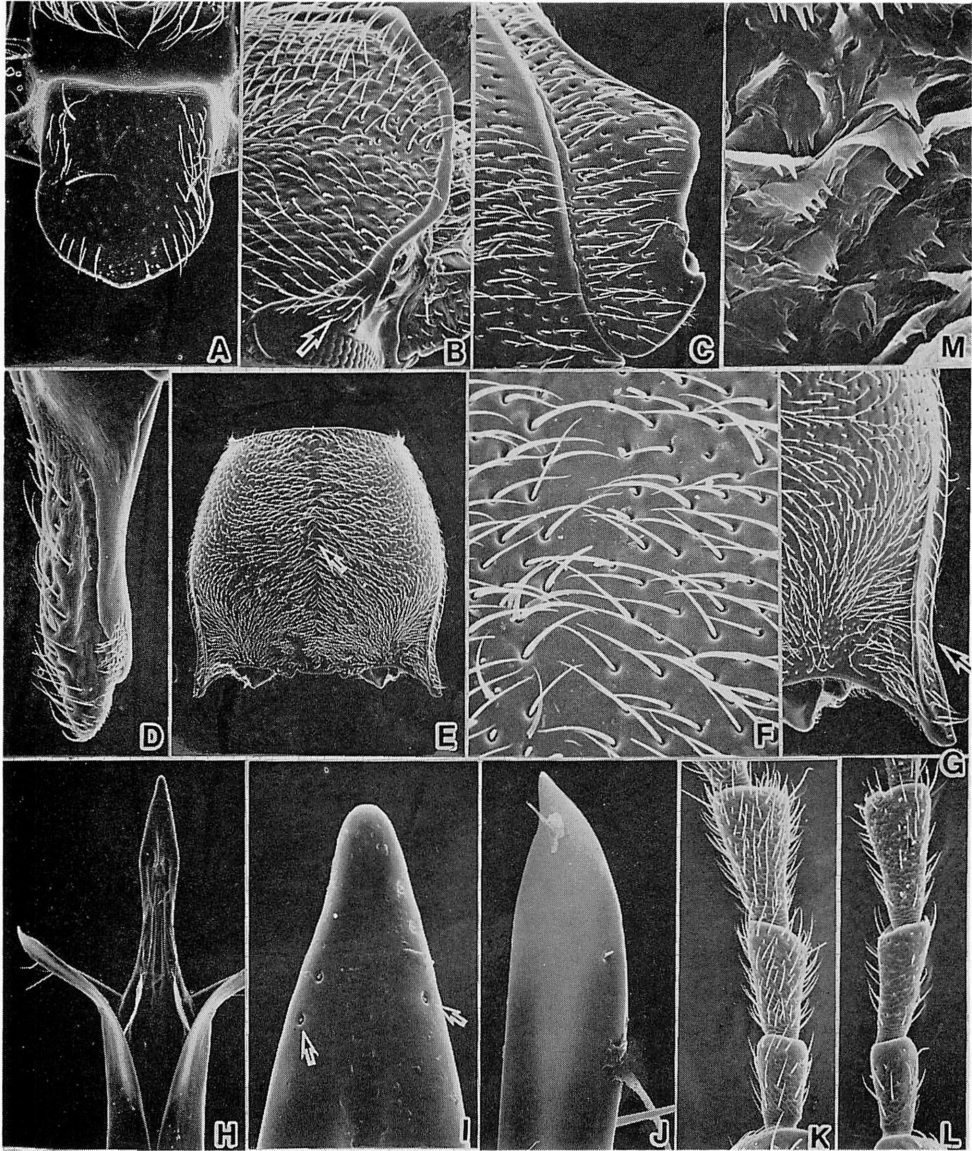


Fig. 2. *Fleutiauxellus tutus* (LEWIS, 1894), male (Tobira-kôsen in Nagano Prefecture) (except for L and M which are of a female).—A, Scutellum; B, clypeal margin; C, basal plate; D, prosternal process; E, pronotum; F, some punctures on the disc of pronotum; G, right hind angle of pronotum; H, aedeagus, ventral aspect; I, same, median lobe; J, same, lateral lobe; K-L, 2nd to 4th segments of antenna; M, sutures on the surface of bursa copulatrix.

は黄褐色，第4節からは黒褐色，肢は黄褐色である。

頭部の前頭部は扁平。前頭横隆線は顕著に縁取られ，前縁部は直線状で，基部の眼の前で大きく二

又する (Fig. 2 B のノ印). 触角は細長く, 末端は前胸背板の後角より末端 1 節ほど後方へ伸長する. 第 2 節は短小で円筒形, 第 3 節は弱い三角形で第 2 節の約 1.2 倍の長さである. 第 4 節は第 3 節の約 1.2 倍の長さで, 第 3 節から鋸歯状を呈する (Fig. 2 K).

前胸背板は後角を含めて幅と長さがほぼ等しく, 背面からみた両側は中央やや後方部でもっとも幅広い. 背面は膨隆し, 正中部には幅広い平滑縦隆線を有する (Fig. 2 E-F). 点刻は小型で, 小粒状の隆起物は発達が悪く, 後半部ではむしろ弱いしわ状である (Fig. 2 F). 後角は短く, 外縁は基部近くで顕著に内方へ湾曲する (Fig. 2 G のノ印). 前胸腹板突起は前肢基節腔を越えて弱く内方へ湾曲, 末端に向かって直線状に伸長する (Fig. 2 D).

小盾板は矩形状, 末端は湾曲して鈍くとがる (Fig. 2 A). 上翅の会合線部はやや扁平, 条線は深く印され, 間室部は弱く隆起し, 小点刻を生じ, 弱いしわ状を呈する. 腰板は中央部でもっとも幅広く, それより外方へやや顕著に細まる (Fig. 2 C).

交尾器の腹面からの外形は図示したようで, 中央突起の末端部は三角状に細まる (Fig. 2 H). また, 両側部にある感覚孔は小型である (Fig. 2 I のノ印). 側突起は細長く, 末端は細まって鋭くとがる (Fig. 2 J).

雌. 雄に比べて体は一般に大型で, 前胸背板は顕著に膨隆する. 触角は短く, 末端は前胸背板の後角までの距離とほぼ等長. 第 3 節は細長く, 第 2 節の約 1.2 倍の長さで円筒形を呈する (Fig. 2 L). 内部生殖器の bursa copulatrix の袋の内面のひだの模様は, 図示したようである (Fig. 2 M). しかし, これは近似種間ではよく似ているので, 主として類縁関係の考察に用いられる.

調査標本

4♂, 10♀♀, 長野県扉鉾泉, VIII-1970, 大平採集. 3♂, 2♀♀, 長野県木曾御岳山, 27-VII-1987, 有本採集.

その他

原記載で C. LEWIS (1894) が述べているように, 本種はミズギワコメツキ (*F. curatus*) に近縁の種であると思われる. 当初は, ミズギワコメツキの肢の黄色化した変種ではないかと思っていたが, 基準標本を検した結果, 独立種であることが判明した.

本種は, 一般外形がミズギワコメツキにきわめてよく似ているが, 触角の第 3 節が短小であること, 前胸背板がより顕著に膨隆し, 正中部の平滑縦隆線がより幅広く明瞭に印され, 周辺部の小粒状の隆起物はより小型でまばらに分布する. また, 前胸背板の側縁は, 後角やや前で顕著に内方へ湾曲する. 雄交尾器の中央突起は細長く, 末端部は三角状を呈し, 側突起も細長く, 末端は鋭くとがる. また, 体表面は光沢があり, 前胸背板の膨隆や光沢などはクロツヤミズギワコメツキ (*Oedostethus telluris*) にきわめてよく似ている.

引用文献

- BATES, H. W., 1883. Supplement to the geodephagous Coleoptera of Japan, chiefly from the collection of Mr. George LEWIS, made during his second visit, from February, 1880, to September, 1881. *Trans. ent. Soc. Lond.*, 1883: 205-290.
- LEWIS, G., 1894. On the Elateridae of Japan. *Annls. Mag. nat. Hist.*, (6), 13: 182-201.
- 大平仁夫, 1988. 日本産ミズギワコメツキ亜科の属の分類について. 越佐昆虫同好会々報, (66): 3-17.